

ツキノワグマ



●ツキノワグマの生態

『生息域』… 本州、四国に生息。九州では絶滅しました。

『行動圏』… 単独で行動します。「なわばり」がないので、複数のクマの行動する範囲が餌場などで重なり合います。30～110km²の範囲で移動します。

『からだ』… 体重は40～130kg。体が柔らかく、30cm四方の穴をくぐりぬけます。
嗅覚・聴覚がすどく人間が気付く前にクマの方で察知します。

『食べ物』… 雑食性だが植物質が主。冬眠前は山林内のドングリ等を食べ脂肪をつけます。
のため、キャンプ場のゴミや農地の廃果等にも居付きやすく、人里周辺に居座りつづける原因になります。

『生活』… 昼夜を問わず、活動と休息を繰り返します。本来、とても臆病なので、人里近くでは早朝と夜間に出没します。

クマの被害を最小限にする鉄則3

鉄則1 「クマを誘うような物は片付ける」

取残しの果樹の実や生ゴミ等は放置せず、指定の場所に持ち込んだり、深く埋めるなど処理しましょう。山に入った時も、お弁当やお菓子等のゴミを捨てると、人間の食べ物の味を覚えてしまうので、かならず持ち帰ること！



▲被害作物も片付けましょう！

鉄則2 「音をたてながら、複数で行動」

とても臆病ですが、ばったり出会ったりした場合には、事故が発生することがあります。山に入るときや山際を早朝や夜間出歩くときは、ラジオや鈴を鳴らしながら、複数で行動するなど、「人間の存在をアピール」しましょう。



電池でも車の
バッテリーでもOK！

鉄則3 「農地に入らせない近づけない対策を」

今は性能のよい、効果のある電気柵が多数あります。地域で電気柵を購入し収穫まぎわだけでも、設置するなど、皆でクマの被害を防ぎましょう。

人間に依存させないことが大切です。

電気柵 →

- ① 手前に複線を張ると、地面を掘ってくぐる事が出来ません。
- ② クマが鼻先で探った瞬間、敏感な鼻に電気がビリッと伝わるのでとても効果的です。
- ③ 設置が容易です。



副線(奥行き)で！